

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第28週 (7/6-7/12) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		28週	27週	26週	25週
小児科		18	18	17	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	27	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			7/6-7/12	6/29-7/5	6/22-6/28	6/15-6/21	6/29-7/5
			28週	27週	26週	25週	27週
小児科	RSウイルス感染症		0	1	0	0	3
	咽頭結膜熱	→	14	14	11	4	131
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		55	56	77	66	476
	感染性胃腸炎		105	107	92	124	740
	水痘		5	7	5	14	51
	手足口病	◎★★★	137	89	55	20	375
	伝染性紅斑	○	29	25	27	17	165
	突発性発しん		15	10	12	15	89
	百日咳	○	3	1	6	1	4
	ヘルパンギーナ	○	39	5	6	4	175
	流行性耳下腺炎		14	10	8	10	93
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	3
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		3	3	1	2	39
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	E型肝炎	男性	70歳代	IgA抗体の検出
結核	男性	70歳代	ツベルクリン反応等	ウイルス性肝炎	男性	70歳代	IgM抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	20歳代	IGRA検査	後天性免疫不全症候群	女性	40歳代	血清抗体の検出

・結核4件(121)、E型肝炎1件(3)、ウイルス性肝炎1件(1)、急性脳炎1件(4)、後天性免疫不全症候群1件(5)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

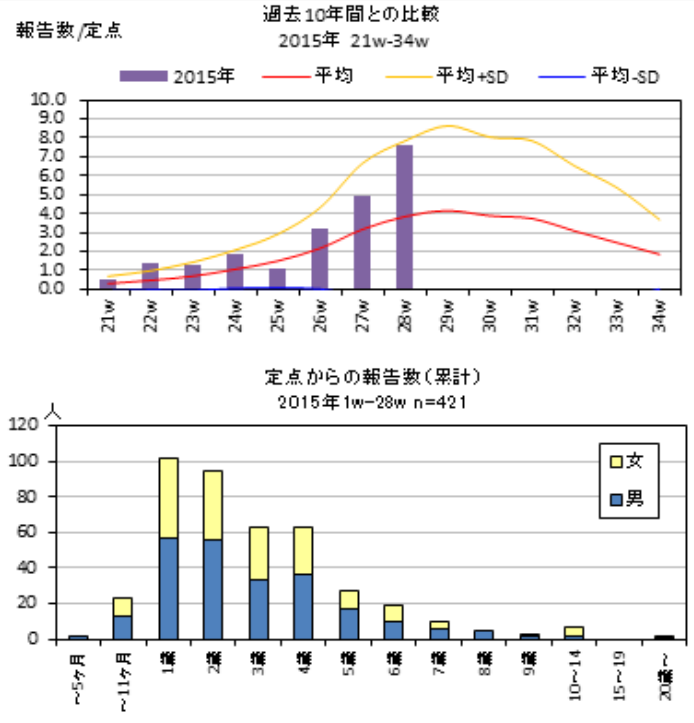
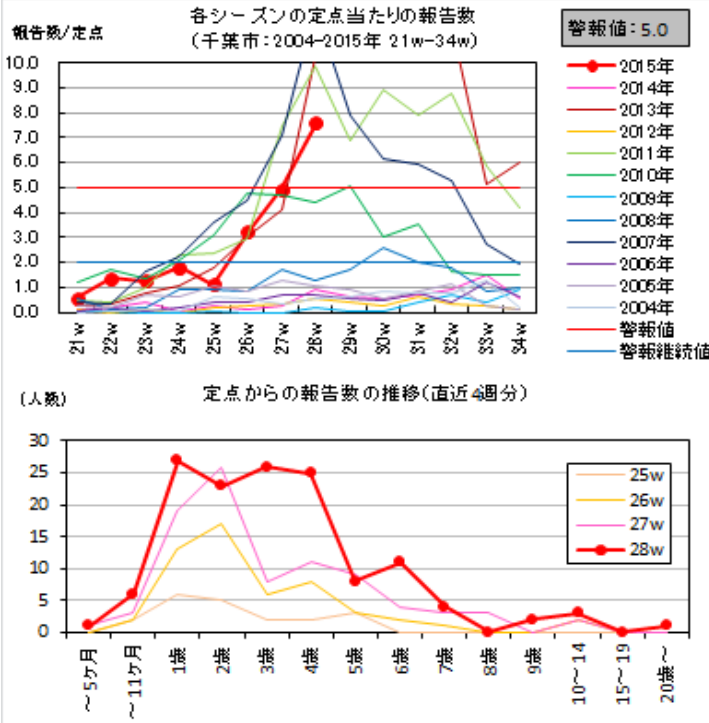
### 定点当たり報告数 第28週のコメント

- <咽頭結膜熱> 前週から横ばいで0.78となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。
- <手足口病> 前週より増加し7.61となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。
- <伝染性紅斑> 前週より増加し1.61となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <百日咳> 第23週から連続して報告があり、前週より増加し0.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <ヘルパンギーナ> 前週よりほぼ8倍に増加し2.17となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

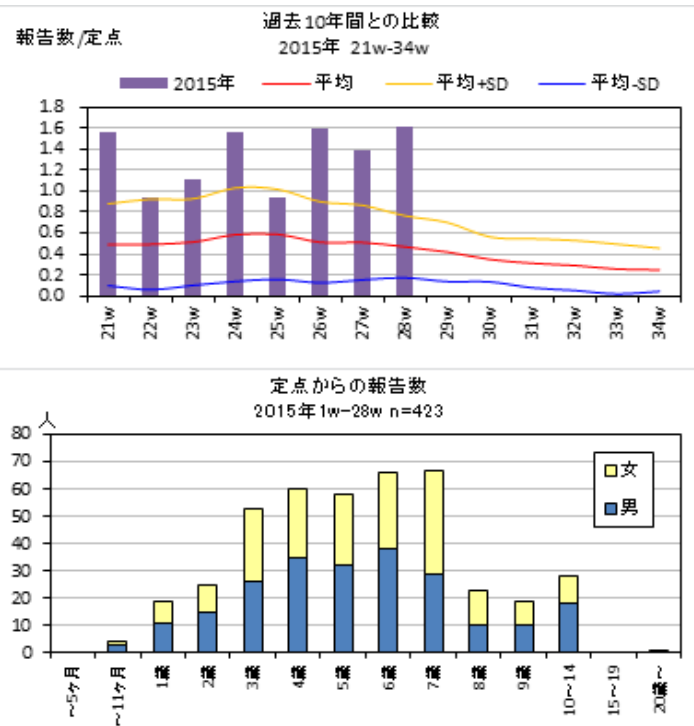
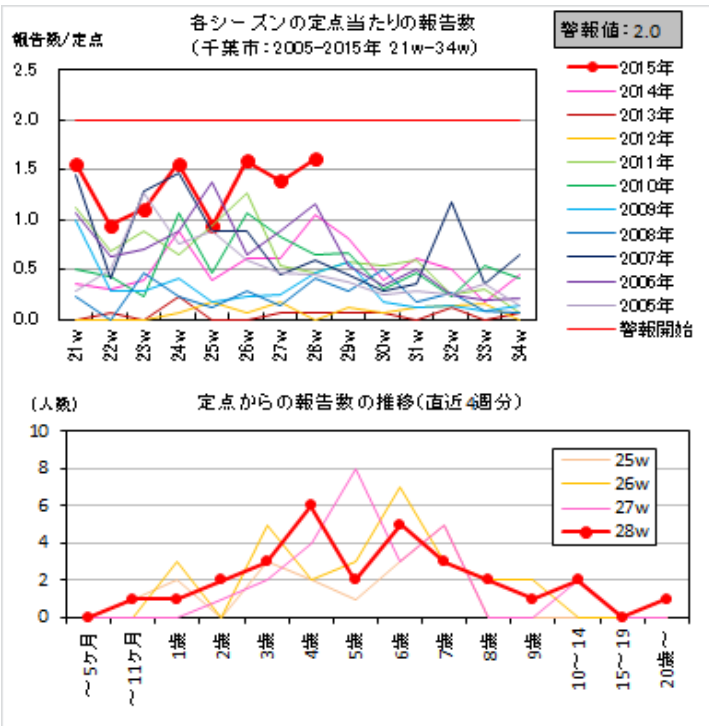
<手足口病>

全国レベルの第27週現在は、過去8年の同時期と比べて多くなっています。都道府県別では、福井県、京都府、香川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第28週は前週から増加し7.61となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べて多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(15.3/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、次いで若葉区(8.5/定点)、稲毛区(6.0/定点)、中央区(5.67/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回りました。美浜区と稲毛区は3歳、若葉区は1歳、中央区は2歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第28週までの累積報告数(n=421)によると、性別では男性が57.0%(240名)、女性が43.0%(181名)で、年齢階級別では1歳(24.2%:102名)、2歳(22.6%:95名)、3歳及び4歳(いずれも15.0%:63名)の順に多くなっています。



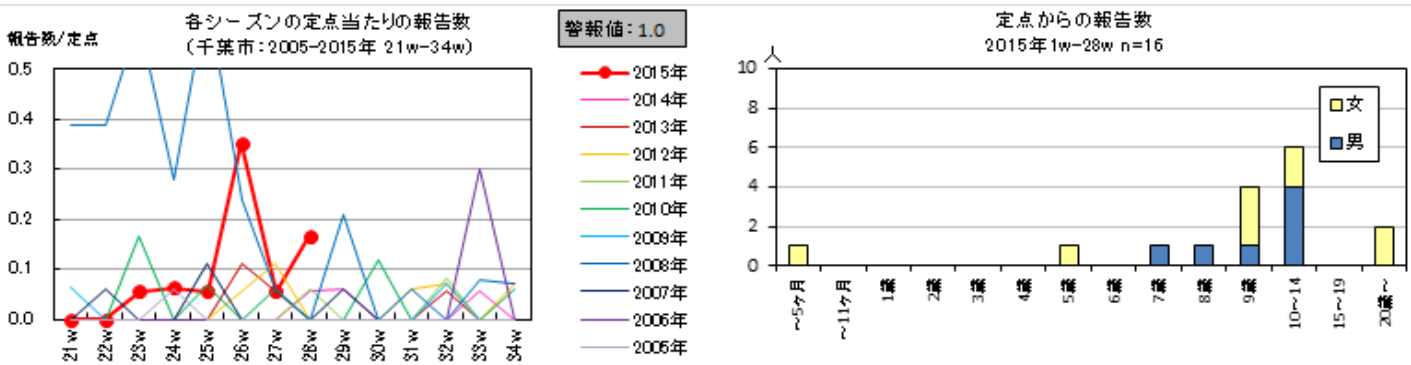
<伝染性紅斑>

全国レベルの第27週現在は、過去8年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、長野県、大分県、埼玉県順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第28週は前週から増加し1.61となり、過去10年の同時期と比べて最多のままです。区別の発生状況は、稲毛区(3.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、次いで緑区(2.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回りました。稲毛区では4歳、緑区では2歳、6歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第28週までの累積報告数(n=423)によると、性別では男性が53.7%(227名)、女性が46.3%(196名)で、年齢階級別では7歳(15.8%:67名)、6歳(15.6%:66名)、4歳(14.2%:60名)の順に多くなっています。



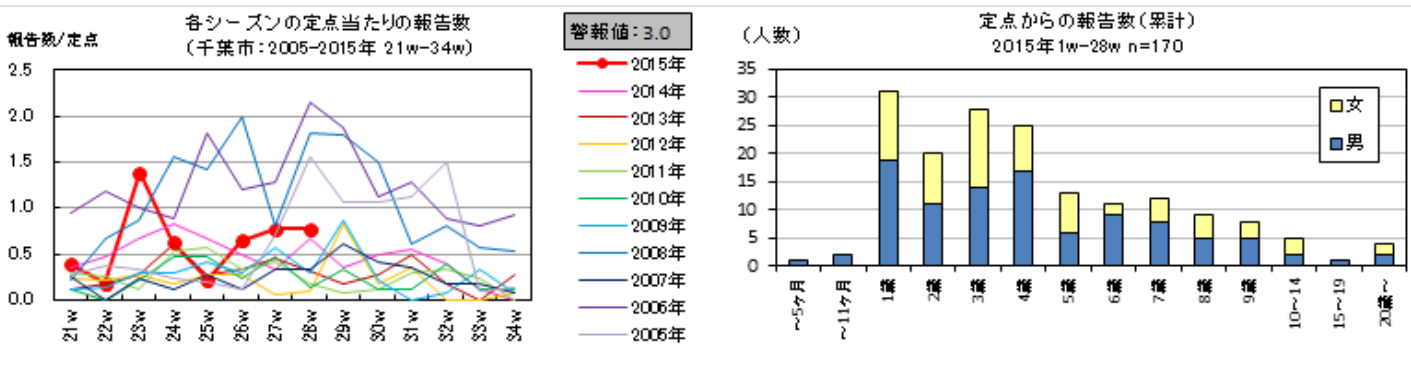
## <百日咳>

全国レベルは過去8年の同時期と比べ年頭から少ないレベルで推移しており、第27週も同様に少なくなっています。都道府県別では、静岡県、鳥取県、沖縄県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと同じとなっています。千葉市の2015年は第23週から連続して発生報告があり、第28週は前週から増加し0.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、中央区(0.67/定点)で流行発生警報継続基準値(0.1/定点)を上回っており最多で、同区の5歳及び9歳で発生報告がありました。2015年第1週から第28週までの累積報告数(n=16)によると、性別では男性が43.7%(7名)、女性が56.3%(9名)で、年齢階級別では10歳代前半(37.5%:6名)、9歳(25.0%:4名)、20歳以上(12.5%:2名)の順に多くなっています。



## <咽喉結膜熱>

全国レベルの第27週現在は、過去8年の同時期と比べ多めとなっています。都道府県別では、島根県、新潟県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2015年第28週は前週から横ばいで0.78のままで、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(3.0/定点)となり最多で、同区の9歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第28週までの累積報告数(n=170)によると、性別では男性が60.0%(102名)、女性が40.0%(68名)で、年齢階級別では1歳(18.2%:31名)、3歳(16.5%:28名)、4歳(14.7%:25名)の順に多くなっています。



## <ヘルパンギーナ>

全国レベルの第27週現在は、過去8年の同時期と比べ少なくなっています。都道府県別では、三重県、福岡県、愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の2015年第28週は前週からおよそ8倍増加し2.17となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(4.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第28週までの累積報告数(n=63)によると、性別では男性が46.0%(29名)、女性が54.0%(34名)で、年齢階級別では1歳(30.2%:19名)、2歳(19.0%:12名)、3歳(17.5%:11名)の順に多くなっています。

